**勃起不全は心臓病の前兆？**

　「勃起不全（ED）」が注目されたのは、1998年に発売された画期的な薬「バイアグラ（一般名シルデナフィル）」の影響が大きかったといっても過言ではない。「バイアグラ以前」に大阪の国立循環器病センターに勤務していた時、患者さんから性生活の相談を持ち掛けられたなどの経緯で、私は性機能と心臓病の研究を始めた。当時の学会では心筋梗塞（こうそく）や心不全の研究が花形で、循環器と性機能の話をしてもほとんど相手にされなかった。

### 性生活もQOLに影響

　心臓の役割は、全身に血液を送るためのポンプのようなものである。動脈硬化が起こると血液の流れが悪くなって心臓がくたびれるだけでなく、心臓自身にエネルギーと酸素を供給する血管である冠動脈にも異常をきたして、狭心症や心筋梗塞を引き起こす。

ペニスの動脈も平時はほとんど静脈と同じ圧だが、いざ“そのとき”になると最高血圧と同じくらいに血流が増える。心臓と同じようにペニスの血管に動脈硬化が起こると、血流が低下して十分な勃起が得られない。だから勃起不全は動脈硬化と深い関係があり、心筋梗塞や脳卒中の前兆である……と25年前に主張していたが、ほぼ無視されていた。その当時は命を守るのが一番で、性機能などは後回しにされていた。今や、患者さんのQOL（生活の質）を保ちながら治療をすることは当たり前であり、性機能も（人によっては）生活の質を大きく左右するのである。

　日の目を見なかった心臓病と性機能の話題は、バイアグラが発売され一変した。発売当初はバイアグラを服用した人が心臓発作を起こしたことが問題になり、その薬のユニークさと合わせて大いに話題になった。当時、心臓病と勃起不全に詳しい医者はほとんどいなかったので、一躍私は時の人になった。実際調べてみると、狭心症の発作止めに使うニトログリセリン（硝酸剤）をバイアグラと合わせて服用すると過度に血圧が低下する恐れがあった。そのため、両者は今でも併用禁忌であるが、それを除けばバイアグラは極めて安全性の高い薬である。

### ED→心臓→脳の順に病気が進展

　さて、なぜ勃起不全が心臓病の前兆になるのであろうか。ペニスへ血液を送る陰茎動脈の直径は1〜2mm、心臓へ血液を送る冠動脈は3〜4mm、脳へ血液を送る内頸（けい）動脈は5〜6mm……と、臓器によって太さが違う。動脈硬化の影響が大きいのは細い血管である。つまり、勃起不全→心筋梗塞→脳卒中の順に病気が進展する可能性が高い。「勃起不全は心臓病の前兆」と言われるゆえんだ。

　最近では、イタリア・フィレンツェ大学のGiulia Rastrelli氏らが「血管年齢と実年齢の差と、心血管の病気との関連」について報告している（The journal of sexual medicine誌2016年2月号）。勃起不全そのものがハイリスクだが、その中でもリスクが少ない患者さん（若年齢、メタボリックシンドロームなし、心血管疾患の家族歴なし）を選別して検討したところ、「血管年齢と実年齢の差」が病気の予測因子となることが分かったようだ。血管年齢は超音波などの検査によってもある程度推測されるが、今回は生活習慣やストレスなどから評価したという。つまり、高度な機械による検査をせずとも、心臓病の危険度がある程度分かるというのである。

　若い人の勃起不全は精神的な問題が大きいようだが、中高年の勃起不全には動脈硬化が強く関連している。軽く考えずに、おかしいなと思ったら一度検査を受けたほうが良いだろう。